

当社保有特許の価値の定量的評価

○ 特許の価値の定量的評価（37 頁）

様々な創意工夫や研究・開発に取り組んだ成果は、主にコスト低減等の経営効率化という形で効果を発揮します。そのため、特許技術が関係している主な施策の累計金額を算定し、そのコスト低減額を基に、特許の価値の定量的評価額を算出しています。

特許出願の効果：特許の価値の定量的評価

※A: 対象企業との事業規模比

| 評価年度 | ①施策件数 | ②特許技術が関係したコスト低減額 | ③特許の価値の定量的評価額(α) | ④他社技術導入原資獲得額(α×A) |
|-----------|-------|------------------|------------------|-------------------|
| 2013年度 I | 137件 | 339億円 | 148億円 | (148億円×A) |
| 2012年度 II | 125件 | 330億円 | 137億円 | (137億円×A) |
| (I-II) | 12件 | 9億円 | 11億円 | — |

◇ 「特許技術が関係したコスト低減額」

新技術の特許出願していることにより事業活動の自由度を確保できている金額効果であり、2013年度は339億円となっています。

◇ 「特許の価値の定量的評価額」

「特許技術が関係したコスト低減額」に特許の強さ等を加味して算定しています。これは、新技術が特許で担保されていることにより当社のみが享受できている金額効果であり、2013年度は148億円となっています。

なお、特許の強さ等の評価項目は、2000年に特許庁が公表した「特許評価指標（技術移転版）」をベースにしています。

◇ 「他社技術導入原資獲得額」

クロスライセンスで他社から技術導入する際に支払う対価相当額（2013年度は148億円×A）を示しています。

自社が対価性のある特許を保有していれば対価が相殺されることから、技術導入における原資として特許の金銭的側面を評価したもので、相手先企業との事業規模比により算出される係数Aの値により変動します。